



第3期 港南区地域福祉保健計画

港南ひまわりプラン 完成!

地域福祉保健計画とは

誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるように、区民の皆さん、活動団体、行政等が協力して、地域の中でお互いに支えあえる関係の充実を目指し、地域をみんなでより良くしていくための計画です。区全体の「区計画」と「地区別計画」で構成されています。

第3期港南ひまわりプランは平成28年3月12日の港南区元気な地域づくりフォーラムで完成の報告を行いました。

区計画づくりに関わった代表3人の方からこれからの意気込みをお話いただきました。



日下地域ケアプラザ 沼所長

地域の皆さんの思いが実現できるようにお手伝いしたいと思えます。地域には宝物がいっぱいあります。これからも港南区の宝物をいっぱい探して、地域の皆さんと一緒に住みやすい地域にしていきたいと思います。



港南区ボランティア連絡会 尾崎会長

助けを必要とする人が声を出しやすくする環境を整えることが大事。また若い方や定年後すぐの方などが気軽にボランティアをやりたいと思えるような魅力ある活動を行っています。



港南区民生委員児童委員協議会 五十嵐会長

民生委員・児童委員は支援が必要な方に寄り添い、今後も活動をしていきます。計画はできあがりが出発点。地域の方に計画を知ってもらうことが大事。手を取り合い、知恵と力を出し合って計画を実現していきます。港南区に大きな福祉の花を咲かせましょう。



区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザで計画冊子・概要版を配布しています。また、区ホームページからダウンロードもできます。



港南ひまわりプラン

基本理念 **ふだんの 暮らしを しあわせに**

目 標 **一人ひとりがつながり、お互いに支えあえる まちを みんなで育てる**

目標達成に向けた8つのテーマ



地区別計画

15通りの素晴らしい、心のこもった計画ができました

港南区、15地区ごとの計画づくりでは、各地区で多くの方から集めた意見や夢を形にする作業となりました。

フォーラムでは、「計画ができるまで」と「一押しポイント」を素敵な音楽に合わせスライドで紹介し、「これからの意気込み」を地区の代表の方が発表しました。皆さんの熱い思いと夢にあふれた発表内容で、会場は感動の空気に包まれました。

気軽に参加でき、交流を深め、支えあえる地域を目指そうと決めました

健康で生き生きと暮らせるまちを目指していきたい

確実に1歩ずつすすめよう! 住んで良かった地域に!

ふるさとになるまちづくりをすすめたい

みなで考えたこと決めたことを楽しくやるぞ

まなざしがあたたかい福祉のまちに!

全ての世代の住民が主役になれるように頑張りたい

フードドライブ<food(食品)drive(運動)>とは?

フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄附する活動です。



たくさん集まりました!

第1回 フードドライブ報告

実施期間 平成27年9月1日～9月30日

寄附総数 466点

米・乾麺(うどん・素麺)・缶詰・お菓子(クッキー・せんべい)・インスタント食品・缶ジュース・缶コーヒー・醤油・油・お茶 他

第2回 フードドライブ報告

3月12日(土)港南公会堂での「元気な地域づくりフォーラム」会場及び、3月14日(月)～18日(金)に区内地域ケアプラザにて、食料募集を行いました。ご協力、ありがとうございました。



寄附者からのエピソード・ご意見

- グループで話して集めて持ってきました。
- 掲示板を見て、初めて社協に来ました。
- お中元でもらったが食べきれないので。
- 少しだけ困っている人に使ってください。
- 高齢者2人暮らしで食べ切れなくて持って来ました。



平成28年
2/13
(土)

第35回 港南区社会福祉大会 が開催されました

第1部 表彰

地域で活動された32人・9団体の方が表彰されました。



受賞者のみなさん

第2部 講演会

「もったいない」を「ありがとう」へ

講師：セカンドハーベスト・ジャパン 田中入馬氏



セカンドハーベスト・ジャパン
田中入馬氏

生活困窮をはじめとした現代社会の課題に対し、企業やボランティアと共に「食」による支援を全国的に展開するセカンドハーベスト・ジャパンの田中氏を講師に迎え、講演会を開催しました。



講師からのメッセージ

～日本の現状～

日本では年間642万トンもの食品が食べられるのに捨てられています。

一方でおよそ6人に1人の人が月に10万円以下で生活しており、また近年子どもの貧困も約16%と深刻な社会問題になっています。



～困った時に食べ物が受け取れる場所を～

私達のフードバンクで扱っているのは実際に廃棄されている食品のうち、ほんの少しですが、それでも活動を続けることが必要だと思っています。私達は橋渡しとして、企業やご寄附をくださる方とそれを受け取る側をつなぐ役目をもっています。本来「食べられない人がいる」という状況はあってはいけないことですが、食べるものがない人と出会うことで支援が必要な人を見つけ出すことができます。日本では、困った時に食べ物が受け取れる場所がありません。そんな場所を全国に作りたと思っています。



～生活困窮になると、食事を削ることになりがち～

食のセーフティネットを確保するためには、地域の社会資源がネットワークを構築し、地域の実状に合わせ、持続可能な仕組みを共同で作っていくことが大切です。まずは地域で関心のある人が集まってミーティングすることから始めてみてはいかがでしょうか。

楽しく活動続ける秘訣

自分達のできることをやる。できる範囲を超えては続かない。活動続けるためにも、自分達が楽しくなければ。

フードバンクとは

フードバンクとは「食料銀行」を意味する社会福祉活動です。まだ食べられるのに、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、食べ物に困っている施設や人に届ける活動のことを言います。(セカンドハーベスト・ジャパンHPより)

参加者からのエピソード・ご意見

- 食品の廃棄について、皆がもう一度考える必要がある。
- 食への考え方を見直す良い機会になった。
- ボランティアとしての生き方、考え方には共感するところが大きかった。
- この仕組みは日本の昔からある隣近所の助け合い、おすそ分けではないか。
- どの程度個人の冷蔵庫に使われていない食品があるか調べてみたい。
- 日本の見えない所の困っている人に渡る仕組みはすばらしい。
- 港南区フードドライブに参加を呼びかけたい。
- 区社協からフードドライブという事を聞いていたもので、非常に興味がありました。少しずつでも手を広げていかれたらいいと思います。
- コミュニティーを利用した食糧の提供は出来そうだと思います。